

令和4年度第3回大府市子ども・子育て会議（要点記録）

日 時：令和5年2月13日（月）午後1時30分～午後2時15分
場 所：大府市役所 全員協議会室

出席委員：渡辺顕一郎、中村佳世子、福島芳恵、日比野充、
加藤美穂子、澤田まなみ、秋津佐智恵

欠席委員：林田佳美、首藤良一、早川和喜

傍聴者：1名

事務局：健康未来部長、子ども未来課長、子ども未来課副主幹兼指導保育士、子ども未来課子どもステーション所長、子ども未来課子ども支援係長、子ども未来課子ども支援係主任、子ども未来課子ども支援係主事、幼児教育保育課長、幼児教育保育課指導保育士、幼児教育保育課保育係長、学校教育課長

1. 会長あいさつ

2. 議題

- (1) 子ども・子育て支援事業計画及び次世代育成支援対策行動計画の改訂について
※事務局より説明

会長

前回第2回の子ども・子育て会議で委員の皆さまに議論いただき、それを踏まえた計画の改訂について、何かご意見やご質問等がありましたらお願いします。

〈質問等なし〉

会長

計画の改訂について、愛知県からも了承を得たということで、報告となります。この会議をもって改訂となりますので、よろしくお願いします。

- (2) 令和5年度子ども・子育て支援に関する新たな取組について
※事務局より説明

会長

中学3年生受験応援（ひとり親家庭等学習塾利用助成）事業の実施について。この国はひとり親家庭、とりわけ母子家庭の貧困率が高いことが特徴で、経済的理由により学力の差が起こってしまうことが課題として取り上げられています。よってこのような支援は意義があると思いますが、令和5年度の予算に720万円計上されており、市としては実際にどれくらいの希望者がいると見込んでいますか。また、対象家庭にどのように周知していきますか。

事務局

本事業の発端として、シングルマザーの方に必要な支援について色々と聞くなかで、一番困っていることは、自分のことよりも、将来的な学力の差等、子どもが差別されることが嫌だという声が多かったことから、子どものためにとスタートしたものです。720万円の積み上げとしては、上限が10万円で、これまでの給付金事務により大体の対象数が把握できていることから、対象者が約90人とし、初年度なのであくまで想定にはなってしまいますが、その中で学習塾を利用している方が8割程手を挙げるかなという見込みです。周知の方法としては、広報おおぶや市公式HPへの掲載はもちろん、児童扶養手当の現況届の手続きで来庁される際に案内を行ったり、対象者に案内はがきを送る等で個別にお伝えしていこうと考えています。

委員

家庭で子育て応援クーポンの利用拡大について。おそらく1歳未満の子の一時的保育についてニーズがあったからこういった利用拡大へ動いたと思うのですが、利用者が増えることで、保育園の職員が十分に対応できるものでしょうか。

事務局

現状、1歳未満で一時的保育を利用する人はあまり多くありません。ではなぜ今回利用拡大をしたかという点、制度が始まった当初は、クーポンを使用できる保育園が公立保育園のみで、一時的保育は基本的に満1歳以上が対象であったことから、クーポンの利用対象においても満1歳からという年齢制限を設けていました。しかし今年度から一部の私立保育園においてもクーポンが使用できるようになり、私立保育園は園によっては緊急以外の1歳未満の子の受け入れに対応しており、整合性をとるためにもクーポンの利用対象を拡大しました。1歳未満の一時的保育の需要はそこまで高くはないため、保育園の職員は十分に対応できると見込んでいます。

会長

eスポーツプロジェクトについて。子どもがゲームに依存してしまう等、ゲームは子どもにとってよくないのではというネガティブな捉え方や意見がある一方で、高齢者が機能を落とさないようにゲームを活用することはよいことだというような、様々な意見があるなかで、ここをぐっと踏み込んだということに、個人的には思い切った取組をされるという印象を受けています。行政がちゃんと予算をつけて、eスポーツを推進していくに至った経緯や、この取組を行うことにどのような意味があると考えているかを教えてください。

事務局

eスポーツを大府市で進めていくことについて、健康都市おおぶとして、高齢者の認知症予防やフレイル予防という観点からの出発となります。子どもと高齢者の世代間交流を目的としている施設である児童老人福祉センターでeスポーツを進めていくことが大府市

の特徴で、例えばおじいちゃんと孫が一緒に来て、孫からおじいちゃんに教えたりといった、世代間交流の機会も目的として入っている施設です。ただ、ゲームセンター化はしたくないので、子どもが最初に来館する際はまず保護者と一緒に説明を聞いてもらい、制限時間を設けつつ、ちゃんとルールを守って活動してもらうように進めていこうと考えています。まだ走りな部分もあるので、色々と試しながら進めていくつもりです。

委員

e スポーツは様々なジャンルがあるが、どのようにマネジメントするでしょうか。また、今後のビジョンを教えてください。

事務局

大府市のe スポーツ推進の目的として高齢者の認知症予防やフレイル予防ということを挙げましたが、全国的にまだエビデンスがあるわけではありません。ただ、ゲームで手を動かしたり、ゲームをするために外へ出ていくということにもつながるので、効果を検証していきながら、大府市らしいe スポーツを進めていきたいと考えています。タイトルとしては、ぷよぷよと太鼓の達人ができるようにしています。今年2月20日から常設となり、小学3年生以上等一定の決まりはありますが、いつ行っても誰が行ってもできる常設のe スポーツルームは、全国でもかなり珍しいところではあります。

委員

e スポーツは、これから子ども達が触れていくべきものになってくると思います。それが公の場所で体験できることはとてもよいことだと思い、大府市の取組に驚きました。

また、バイオリンによる音楽教育の実施について。バイオリンと一生関わらずに過ごすこともできるなかで、学校でそのような体験させてもらえることは貴重だと感じています。本校でも実施されるとのことで、とても楽しみにしています。

会長

令和5年度子ども・子育て支援に関する新たな取組について、委員の皆さまより様々なご意見をいただきまして、これも踏まえてお認めいただいたということで、よろしく願いいたします。

(3) 令和5年度新設保育園等について

※事務局より説明

委員

閉園する横根保育園と共長保育園について、跡地はどのようになるのでしょうか。私が利用している共長児童センターの真横に共長保育園があり、2年ほど前に町内の回覧板で、共長保育園の跡地の活用についてのアンケートが回ってきました。公園をつくるのですとか児童センターのために活用する等色々な項目がありましたので、その後どのような話

合いがされているのか個人的に興味があり、質問しました。

事務局

閉園する保育園の跡地についてはまた自治区へも説明をさせていただき予定ではありませんが、共長保育園については、共長児童センターの広場としての活用を進めていきたいと考えています。横根保育園については、市の土地ではないため、所有者の方へお返しすることになります。

会長

全国でいうとどんどん少子化が進んでおり、出生数は令和3年度実績が約81万人まで減少し、とは言ってもそれを上回る勢いで共働き家庭が増加しているので、自治体によっては待機児童が出ている状態です。これも地域によって格差が大きく、待機児童が出るのは大都市圏がほとんどで、他の多くの自治体は少子化の影響の方が強くなっています。私は三重県でいくつかこのような会議に立ち会っていますが、保育需要のピークは過ぎたという考えのもと、5年後10年後の少子化を見据えながら、どうやって保育園と幼稚園を統合して認定こども園にしていくか、どこの公立保育園をなくして、私立へ移行していくか等を議論している状態です。保育需要が減っていく前提で5年後10年後の保育の計画を立て始めている自治体の方が圧倒的に多いと考えますが、大府市はおそらく保育需要がまだ伸びていて、このような保育所整備の計画をされているのだと思います。厚生労働省の現在の予測では、全国的には令和7年度がおそらく保育需要のピークで、その後は緩やかに下がっていくという見込みですが、大府市では大体いつ頃に保育需要のピークを迎えて、それからどれくらい減っていくのか、ベースとなるデータや根拠があって計画を立てているか伺いたいです。

事務局

大府市においても児童数の推計をしていて、それに基づくと、保育需要のピークには本当にここあと数年先か、ちょうどピークの中にいるという認識です。ピーク後は、他の自治体と同じように減少していく見込みです。これは自然増の部分で、住宅開発等による社会増の部分では、人口が増えるような地域もあるので、それらを見据えながら、5年後10年後の保育を考え、保育施設の再編等を進めていきたいと考えています。

会長

他にご意見ご質問等がないようでしたら、お認めいただいたということで、令和5年度からこの取組を進めていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

4. 閉会あいさつ

以上